

第50回医療功労賞 中央表彰者の10人

過疎地や海外の紛争地など、厳しい環境で長年地域住民の健康支援に尽くした人を表彰する「第50回医療功労賞」の中央表彰者10人が決まった。国内部門8人、海外部門2人の受賞者の横顔を紹介する。(敬称略)

中央選考委員 (敬称略)

- 永井良三 (自治医科大学長)
- 曾根智史 (国立保健医療科学院長)
- 五十嵐隆 (国立成育医療研究センター理事長)
- 尾身茂 (地域医療機能推進機構理事長)
- 正木尚彦 (国立療養所多磨全生園長)
- 菱沼典子 (三重県立看護大学長)
- 吉田学 (厚生労働事務次官)
- 伊原和人 (厚生労働省医政局長)

笠井聡

(SOMPOホールディングス)

介護・シニア事業オーナー(執行役)

首藤正一 (アインホールディングス)

代表取締役専務

杉山美邦 (日本テレビ放送網)

代表取締役社長(執行役員)

山口寿一 (読売新聞グループ本社)

代表取締役社長

吉村秀男 (読売新聞東京本社取締役事業局長)

地域の健康 長年守る

歯科医師の育成 カンボジアで30年



【海外部門】 宮田 隆 71 歯科医師



カンボジアの歯科医に歯周病の治療方法を教える宮田さん(右から3人目) 〓宮田さん提供

約30年間にわたり、カンボジアやラオスで歯科医師らの育成に力を尽くしてきた。
長年の内戦で荒廃したカンボジアで活動を始めたのは、1991年のことだ。現地の大学の歯学部を訪れた際、内戦の影響で教員の多くを失い、授業さえままならな

い状態を目の当たりにした。「歯科医療復興のためにできることをしたい」と、自ら教科書や治療に使う機材集めに奔走。専門の歯周病学をはじめ、歯科治療に関する講義を受け持ち、教鞭をとった。
日本の大学に勤務しながら、2

か月に1回ほどカンボジアに通っていたが、2002年には病院長を務めていた明海大学を退職。カンボジアなどでの活動に専念する決断をした。
当時51歳。「70歳くらいになると体が衰えてくる。歯科医として自分に残された時間を、誰にささげるのかを考えた結果だった」と振り返る。

その後、1年半ほどカンボジアに滞在。車に必要な医療機材を積み込み、歯科医がいなかった過疎地を中心に、カンボジア中をまわって診療を行った。現地住民の歯科、口腔疾患の改善に大きく貢献した。

歯科医師の教育にも力を入れた。カンボジア政府が認定する歯周病専門医を20人以上、育て上げた。まず熱意のある歯科医を10人ほど集めて教え、次はその歯科医たちが後輩を育成する。そんな仕組みを作り上げ、「良い循環ができた」と語る。教えを受けた歯科医師たちは現在、カンボジアの歯科医療の中枢で活躍している。

その成果を踏まえ、今は歯科医療が立ち遅れているラオスで、看護師に歯科口腔教育を行うプロジェクトに力を注ぐ。新型コロナウイルスの影響で現地には足を運べないが、日本で歯科医院での診療の傍ら、オンラインで現地の医療関係者に授業を行う日々を送る。「コロナが落ち着いたら一日も早く現地に向かい、まだまだ活動を続けたい」

〓カンボジア、ラオス

三好 知明 66 医師

【海外部門】

渡部 和男 61 診療放射線技師

【国内部門】

正田 晨夫 75 歯科医師

あさお

国立国際医療研究センターの外科医として、31か国に130回派遣され、主に発展途上の医療支援にあたった。

体への負担が少なく、的確な診断につながる検査を心がけ、医療画像のデジタル化や地域連携推進に貢献した。

歯科医がいないうちに診療室を開設するなど、過疎地や受診が難しい人々の口腔ケアに取り組んだ。1979年に

療支援

構築

奮闘

奈良県内で開業